

# Letter for Members

## 【コンテンツ】

● 支部学術大会報告 .....	113
● 第 36 回 EPA 学術大会 .....	116
● 2012 京都グローバルワークショップ .....	117

## 支部学術大会報告

### ●中国・四国・九州支部合同学術大会

平成 24 年 9 月 1 日 (土), 2 日 (日) に広島市南区民文化センターで, 平成 24 年度(社)日本補綴歯科学会中国・四国・九州支部合同学術大会が開催されました。本大会は, 中国・四国支部の広島大学大学院先端歯科補綴学研究室の赤川安正教授と九州支部の長崎大学大学院歯科補綴学分野の村田比呂司教授の教室の協力のもと, 土江健也広島市歯科医師会会長を大会長として, 準備をいたしました。(社)日本補綴歯科学会が公益法人を目指すなかで, 最初に開催された学術大会のため, 今までの運営と少し異なりましたが, 皆様のご理解とご協力のもと, 大きな支障もなく無事に開催となりました。



中国・四国・九州支部合同学術大会のスタッフ



土江健也大会長の開会挨拶



招待講演の講師, 座長, 両支部長



特別講演の講師と座長

ビギナーズセミナーでは, 支台歯形成に関して平山洋先生 (タフツ大) と嶋倉道郎先生 (奥羽大) にご講演をいただきました。招待講演では, 平山 洋先生によりアメリカの Digital Dentistry の現状と未来について, 先進医療シンポジウム「先進医療を知る・進める」では, 志賀 博先生 (日本歯科大), 安部倉仁先生 (広島大) にそれぞれ講演をいただきました。特別講演では, 田中卓男先生 (鹿児島大) と寺田善博先生 (九州大) が, 両先生の現在までのご研究・臨床の成果を総まとめされ, それらの重要性を熱く語っていただきました。生涯学習セミナーでは, 今年の 4 月から接着ブリッジの臼歯部への

保険適用となったことを機会に、「接着ブリッジを極める」とのテーマのもと、第一人者の松村英雄先生（日本大）と矢谷博文先生（大阪大）にご講演をいただきました。市民フォーラム「噛んでしあわせ、いきいきライフ！」では、米山武義先生（日本歯科大）と松山美和先生（徳島大）がきわめてわかりやすく話をされ、有用な情報を市民に伝えられました。いずれのプログラムも参加者の関心が高く、会場では立ち見が出るほどの盛況でした。

### ●東京支部学術大会

平成24年9月22日（土）、23日（日）の2日間、日本歯科大学生命歯学部富士見ホールにて、日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座新谷明喜教授を大会長として、平成24年度社団法人日本補綴歯科学会東京支部総会ならびに第16回学術大会が開催されました。

一般口演12演題、専門医申請ケースプレゼンテーション1演題が発表され、350名の参加者があり、活発な質疑応答が行われました。また、総会では前年度の優秀発表に対する表彰も行われました。

また、第1日目に日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座教授志賀博先生座長のもと、東京医科大学大学院全部床義歯補綴学分野秋葉徳寿先生、日本大学歯学部歯科補綴学第II講座大山哲生先生、日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座新谷明一先生の3名の東京支部若手研究者による講演が開催されました。第2日目には特別講演として、“歯科補綴治療のイノベーション”をテーマに、日本大学歯学部歯科補綴学第II講座教授石上友彦先生の座長のもと、日本歯科大学歯科補綴学第2講座教授新谷明喜先生、東京医科大学摂食機能回復学講座摂食機能構築学分野教授五十嵐順正先生、日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座教授小林義典先生の3名の先生をお迎えしてク

学術学会の基幹である一般口演およびポスター発表は、それぞれ25題と10題と多く、十分な討論がなされました。さらに、専門医ケースプレゼンテーションも5題の発表が行われました。

9月1、2日の残暑厳しい時期でしたが、省エネにも配慮してクールビズで対処し、参加者総数484名の熱気に溢れた2日間でした。（広島大 貞森紳丞）



3名の講師の先生方と座長の志賀先生（右）、新谷大会長（中央）



特別講演の3名の講師の先生方と座長の石上先生（右）

ラウンブリッジ、部分床義歯、全部床義歯のそれぞれの観点から講演をしていただきました。

最先端の歯科補綴治療について学ぶ場として、また参加者同士の交流を深める場として大変有意義な学術大会となりました。（日歯大 五味治徳）

### ●関越支部学術大会

平成24年度関越支部総会・学術大会は、平成24年10月14日（日）に新潟県長岡市「ハイブ長岡」にて、（社）新潟県歯科医師会共催で開催しました。

日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座教授



開会ご挨拶の渡邊大会長



学術大会会場

渡邊文彦大会長からご挨拶があり、支部会学術大会開催は学会員の研究発表の場であるとともに地域への補綴学、補綴治療の啓蒙にあると説明されました。参加人数は、126名と例年より多い参加者でした。

生涯学習公開セミナーの  
眞坂先生と魚島支部長特別講演の岡田先生と  
魚島支部長

最初に生涯学習公開セミナーが開催され、眞坂信夫先生（東京都開業）から「接着ブリッジの臨床」長期経過症例から提案する接着ブリッジの活用法についてご講演され、接着ブリッジの基本的考え方から、30年の長期経過症例から有効性について詳しく解説していただきました。

特別講演では、岡田智雄先生（日本歯科大学附属病院 心療歯科診療センター）から「補綴臨床における Difficult Patient への対応法」のテーマでご講演いただきま

した。Difficult Patient は医療者に疲労、ストレス、燃え尽きを生じさせるため、適切に対応する方策について解りやすく解説していただきました。両先生の講演後、会場より活発な質疑が行われました。

一般口演では、13 演題の発表があり、専門医ケースプレゼンテーション I 演題が同時に行われました。

短時間ではありましたが、充実した発表、活発な質疑が行われた大会となりました。（日歯大新潟 黒川裕臣）

### ●東北・北海道支部学術大会

平成 24 年度の東北・北海道支部学術大会は、10 月 27 日（土）～28 日（日）の 2 日間にわたって、仙台市の良陵（ごんりょう）会館において開催されました。今回の支部大会では、口演発表 8 演題、ポスター発表 14 演題と、昨年の 3 支部合同大会を除く最近の支部大会の中では最大の演題数が集まりました。初日の専門医申請ケースプレゼンテーションでは 7 名の申請者による発表があり、会場は指導に携わった先生や、これから専門医を取得しようとする会員などで一杯になりました。また、隣接する会場で同時に開始された市民フォーラム「安心・安全なインプラント治療」には、多くの市民の方の参加が得られ、小山重人先生（東北大）と近藤尚知先生（岩手医大）による講演に市民から質問も出るほどの盛況ぶりでした。2 日目には「高齢者の生活習慣と健康寿命」というタイトルで、小坂 健先生（東北大・国際歯科保健学分野）の特別講演が行われ、高齢者の医学的、社会心理的問題に関して興味深いお話を聞くこと

市民フォーラム「安心・安全なインプラント治療」で  
市民から質問シンポジウム「超高齢社会における義歯治療の再考」  
の総合討論専門医ケースプレゼンテーション会場の  
熱気にあふれた様子

ができました。同じく高齢者をキーワードにしたシンポジウム「超高齢社会における義歯治療の再考」では、清野和夫先生（奥羽大）の座長のもと、菅野博康先生（仙台市・すがの歯科医院）、斎藤純一先生（山形市・桜田斎藤歯科医院）、池田和博先生（北海道医療大）の 3 名の講師から、臨床現場のさまざまな問題や対応策についての発表がなされ、熱心な総合討論が繰り広げられました。（東北大 菊池雅彦）



## オランダ・ロッテルダム European Prosthodontic Association 学術大会

### 上田貴之 (東歯大)

2012年9月6日から8日まで、第36回ヨーロッパ補綴歯科学会 (European Prosthodontic Association; EPA) 学術大会が、ヨーロッパ老年歯科医学会 (European College of Gerodontology) 2012年度学術大会との共催でオランダ・ロッテルダムにて開催されました。大会長は両学会の現会長である Cees de Baat 教授でした。ロッテルダムはオランダで2番目の人口を有する都市で、第2次世界大戦において徹底的な破壊を受けたため、歴史的な街並みのアムステルダムとは対照的に近代的な建築が立ち並ぶ港湾都市です。大会期間中にロッテルダム港で世界最大級のポートフェスタが開催されていたため、街が活気と人であふれていました。

今回の学術大会は、大会テーマである “BepREPAred for your patient” の元、Dr. Nico Creugers による Oxford lecture “On dental status and oral function” の他、10名の招待演者による基調講演、34題の口演発表および104題のポスター発表が行われました。古谷野理事長をはじめ、本学会からの参加者も多く、日本からは2題の口演発表と10題のポスター発表が行われました。その中から、東歯大の山田裕介が最優秀ポスター賞を受賞しました。EPAからの表彰は、口演1演題、ポスター1演題であり、Gala Dinner中に華々しく発表が行われましたので、本会の存在を十分に示すことになったと思います。今後の本学会との良好な関係作りにつながるものと期待されます。

### ◆JPS 会員の受賞

最優秀ポスター賞 2012

Staphylococcal attachment reduces on UVC-irradiated titanium by changing surface properties

山田裕介 (東歯大・有床義歯補綴学)



ウェルカムレセプションが行われたロッテルダム市庁舎



会場である De Doelen の口演会場



Gala Dinnerにて大会長から表彰を受ける演者と共同演者。  
(右より) 櫻井 薫, 山田裕介, Cees de Baat 大会長, 山田将博, 上田貴之。いずれも東歯大。



## 2012 JPS 京都グローバルワークショップ

### 田中順子 (大歯大)

2012年10月18～20日の3日間、京都にて2012 JPS 京都グローバルワークショップが開催されました。アメリカ、スイス、インド、韓国から補綴学会、組織の代表が来日され活発な議論が展開されました。

ワークショップの主たる目標は、歯科補綴学に関する問題に対して国際的な理解とコンセンサスを得ることであり、今回の2012では「これからの補綴専門医ならびに補綴治療の役割」という内容で開催されました。

古谷野理事長の開会の挨拶から始まり、会が円滑に進行していきました。補綴学の未来について基調講演をされたMaryland大学歯学部長のDr. Christian S. Stohlerや、ICP、EPA、APS、KAP、IPS、JPSの代表者によって国ごと、組織ごとによる補綴専門医になるための必要な条件やトレーニング状況など、さまざまな現状が報告されていきました。日本から参加されている補綴学会の会員の先生方からも質問が行われ、白熱した議論が展開され1日があっという間に過ぎていきました。

初日の夜には懇親会が開催されました。始まる直前にお抹茶がふるまわれ京都らしい雰囲気で大変趣を感じました。小林義典先生の乾杯のご発声によってスタートし、終始和やかなムードで皆さん大いに親交を深められていました。また、今回のワークショップには(株)松風の研修施設をお借りして、2日目に施設見学も行わせていただきました。

最終日には今回のワークショップによる共同声明の草案が作成されました。前日、前々日以上に白熱した討論になり、内容の修正が生じるたびにパソコン上で元の原案が修正されていきました。パワー溢れる各国の先生方の議論を聞きながら、改めてグローバルだと実感した3



ワークショップに参加された先生方



ワークショップ会場にて

日間でした。

最終的に6つの補綴専門医に関する声明が作成され、盛会裡にワークショップは閉会されました。

